

新ガッツだ おまかせくん!

小学校編

作 ロナウジーニョ太郎

No.39



くにさきの文化財

安岐町朝来「宝塔(釜ヶ迫国東塔)」

国重要文化財

国東半島に広く点在する宝塔(国東塔)は、そのいずれもが鎌倉から室町にかけての石造美術が最も充実した時代の遺品です。

その中でも、この釜ヶ迫国東塔は、ひときわ優美な宝塔(国東塔)だといわれています。

基礎は、三重でそれぞれに格狭間が刻まれていて、その上には請花と反花のある蓮華座が置かれ、間に玉縁が設けられています。

塔身は、壺形に近く四仏の種子が薬研彫りさられていて、その間に銘文が「為慈父悲母所云々建武二年(1335)」と陰刻されています。



注1

格狭間とは、台座の脚の間や須弥壇の側面の羽目板などに施された曲線模様の装飾。

注2

蓮華座とは、仏像を安置するための台座の一種。玉縁とは、縁どりをした美しい縁。

注3

種子とは、種子字といい種子とも書く。密教で個々の仏・菩薩・諸尊を象徴的に表す1字の梵字。

注4

薬研彫りとは、石に文字な

注5

どを彫刻するのに、薬研の形、すなわちV字形に彫ること。

注6

陰刻とは、文字又は絵画をくぼませて掘り込むこと。



まずシリコン製の型にベーパーパウダーをまぶし、輪ゴムで固定。ここに加熱して溶かした錫の合金を流し込みます。数分で固まったら、余分な部分をノコギリでカットし、紙ヤスリをかけます。研磨剤で磨くと、みるみるつやが出て、顔が映るほどピカピカになります。鑄造体験は「銅鏡づくり」500円、「銅鐸づくり」1,000円で、どちらも1時間ほどで完成します。古代の人は石で型をつくり、銅と錫の合金(青銅)で製品をつくっていました。



弥生のムラ 銅鏡・銅鐸作り体験
作り方はとってもかんたんです